

1. 太平洋側のマイワシについて

○東北海域におけるマイワシ棒受網漁の状況について

岩手県大船渡港では、12月10日から火灯利用棒受網によるマイワシの水揚げが始まり、12月下旬からは1日あたり100～200トン前後の水揚げとなった。宮城県気仙沼では12月26日から棒受網漁が始まり、南三陸町～金華山沖を漁場とし、小羽主体で中羽は1割程度混じっていた。岩手県、宮城県における棒受網マイワシ漁の状況から、少しずつマイワシも南下を始めているものと考えられる。

2. 太平洋側のさば類について

○石巻港：12月の水揚量は11月を上回ったものの、前年を下回った（表1）。魚群の南下にともない、漁場は12月上旬には八戸沖、中旬は宮古沖～金華山沖、下旬は金華山沖～犬吠崎沖に形成された。1日あたりの水揚量は12月上中旬は1000～2000トン程度で多くても5000トンであり、1網あたり漁獲量も少なかった。東北各港へ水揚げされたさば類の体長（尾叉長）は30cm前後主体であった。

全体的に北部まき網によるさば類水揚量が少ないことから缶詰原料が不足しており、前年よりも比較的高値で取引されている。

表1. 石巻港におけるさば類の水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
11月	6,055.4	100	4,874.8	116	0.8	1.2
12月	11,922.0	100	10,331.7	126	0.9	1.3

マサバの体長組成 (12月23日)

1そう巻網金華山沖

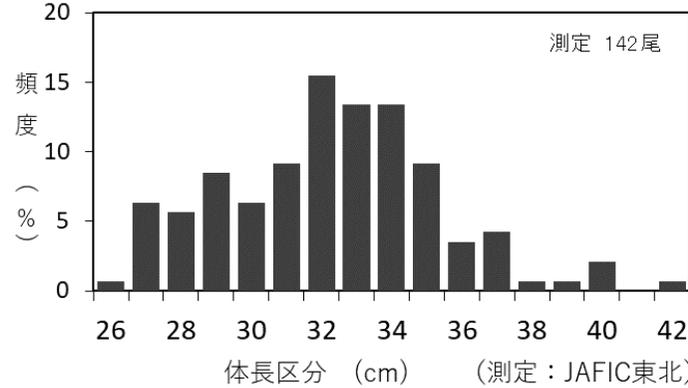


図1. 12月23日石巻港水揚のさば類体長組成

○銚子港：12月の水揚量は11月を上回ったものの、前年を下回った（表2）。漁場は金華山沖が主体であったが、銚子港に水揚げする船が多かった。銚子港で水揚げされたさば類の体長は34cm前後主体で体重300g前後主体であり、400～500gも混じった。

表2. 銚子港におけるさば類の水揚量と平均価格

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
11月	11,830.0	119	7,859.3	134	0.7	1.1
12月	34,743.3	103	27,425.7	149	0.8	1.4

マサバの体長組成 (12月23日)

一艘まき網

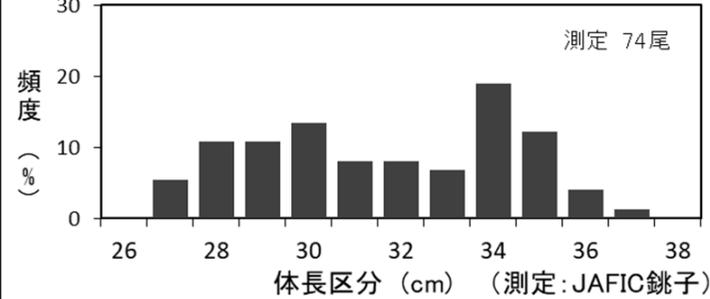


図2. 12月23日銚子港水揚のマサバ体長組成

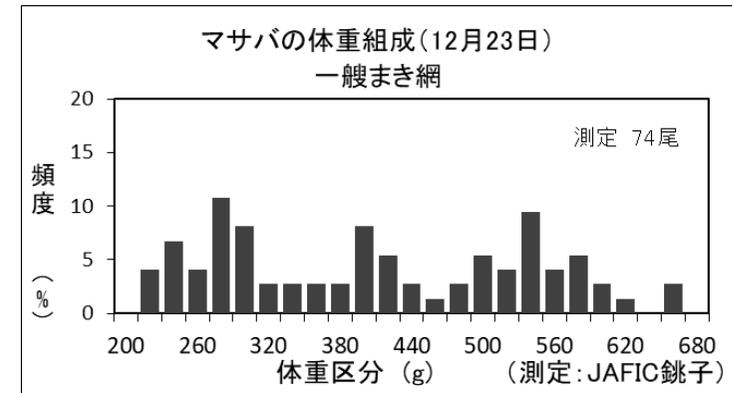


図3. 12月23日銚子港水揚のマサバ体重組成

3. 日本海および東シナ海側のマサバについて

○境港：12月の水揚量は11月を下回ったが、前年を上回った。（表3）。価格は101円/kgであり、11月を上回ったものの、前年同月を下回った。コロナ禍により魚類養殖生産が引き続き減少し、餌料の需要が減ったためと推察される。

表3. 境港におけるマサバの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
11月	218.5	167	1,882.0	80	8.6	0.5
12月	11.0	150	126.5	101	11.5	0.7

○松浦港：12月の水揚量は11月を下回ったが、前年を上回った（表4）。11月に引き続き九州西沖海域主体の操業で、対馬海域での操業もあった。水揚げ物の体長は27cm前後主体であり、30cm以上も混じった。体重は200～300g前後主体で400～500g前後も水揚げされた。0～1歳魚主体と考えられる（図4、5）。今後は対馬海域を中心に漁獲が続くと考えられる。

表 4. 松浦港におけるマサバの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
11月	716.4	163	1,763.6	134	2.5	0.8
12月	363.5	202	533.9	235	1.5	1.2

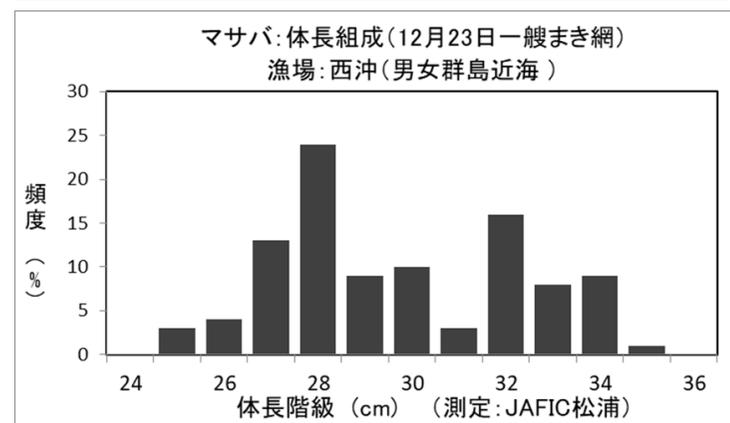


図 4. 12月23日松浦港水揚のマサバ体長組成

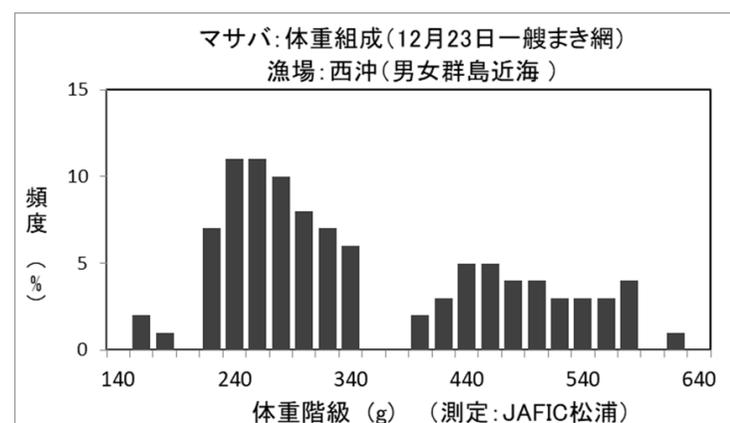


図 5. 12月23日松浦港水揚のマサバ体重組成

4. 日本海および東シナ海側のマアジについて

○境港: 12月の水揚量は11月を上回るとともに、前年を上回った。価格は110円/kgであり、11月及び前年同月をともに下回った。マサバ同様にコロナ禍により魚類養殖生産が減少し、餌料の需要が減ったためと推察される。

表 5. 境港におけるマアジの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
11月	298.5	224	363.0	158	1.2	0.7
12月	11.0	206	673.0	110	61.2	0.5

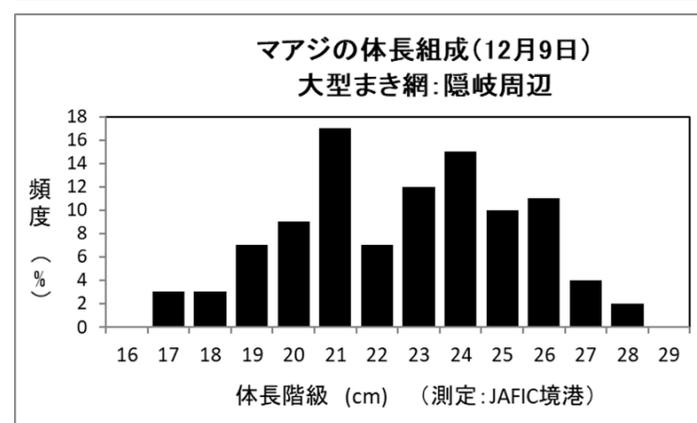


図 6. 12月9日境港水揚のマアジ体長組成

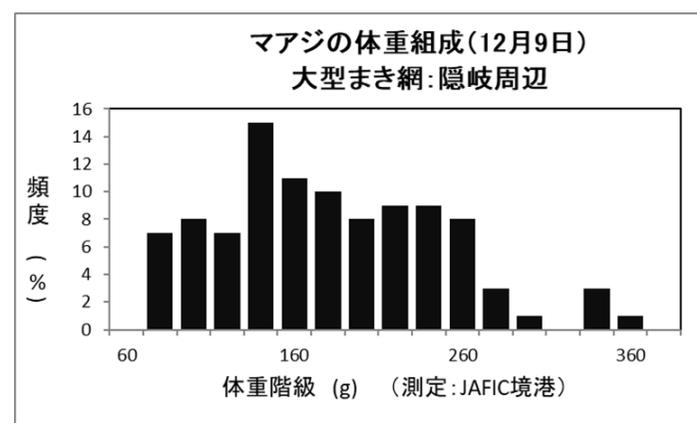


図 7. 12月9日境港水揚のマアジ体長組成

○松浦港: 12月の水揚量は11月を下回ったものの、前年を上回った(表6)。12月の主漁場は九州西沖海域であり、対馬海域にも漁場が形成された。水揚物の体長(尾叉長)は22cm前後、100~140g前後主体であり(図8、9)、今後は対馬海域中心の操業となり、1歳魚主体に漁獲されると思われる。

表 6. 松浦港におけるマアジの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
11月	1,316.4	195	1,285.7	234	1.0	1.2
12月	533.8	273	731.7	211	1.4	0.8

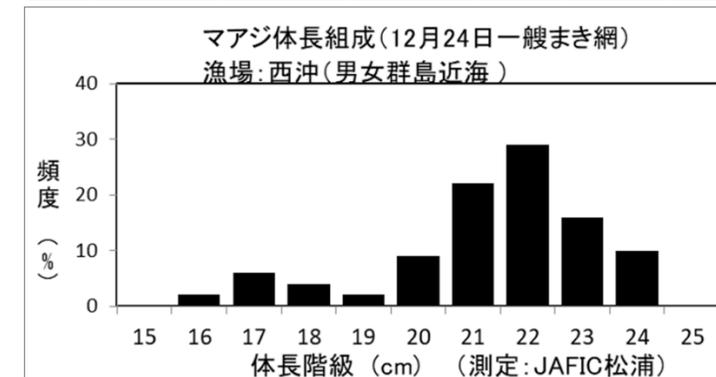


図 8. 12月24日松浦港水揚のマアジ体長組成

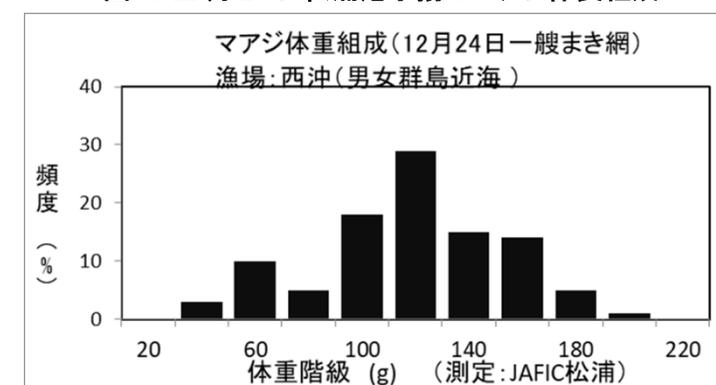


図 9. 12月24日松浦港水揚のマアジ体長組成

5. まとめ

太平洋側のマイワシは、道東海域での操業を終え、12月上旬から三陸海域での棒受網漁が始まり、体長17cm前後主体、体重50g前後主体に漁獲された。

太平洋側のさば類については、12月上旬は八戸沖~宮古沖、12月中旬は宮古沖~金華山沖、12月下旬は金華山沖~犬吠崎沖に形成された。12月の東北各港の水揚物は、体長は32cm前後主体で体重300~500gの南下群が主体で

あった。1日あたり1000～2000トン程度水揚げし、多い日には5000～1万トン水揚げがあった。1網あたりの水揚量は依然として少なく、魚群のまとまりは悪かった。北部まき網によるさば類の水揚げは1月中旬まで継続し、その後はマイワシ主体の水揚げに切り替わると考えられる。

境港ではマサバ・マアジともに前年を上回る水揚量であった。価格は両魚種とも前年を下回った。コロナ禍により魚類養殖生産が減少し、餌料の需要が減ったために価格が下落したと推察される。

東シナ海では九州西沖海域を中心に対馬海域でもマサバとマアジが漁獲された。マサバの水揚量は11月を下回ったものの、前年を上回った。体長27cm前後(0歳魚)が主体で、体重200～300g前後主体で400～500g前後も水揚げされた。今後は対馬海域で0～1歳魚が漁獲され则认为られる。マアジの水揚量は11月を下回ったものの、前年を上回った。体長22cm前後、体重100～140g前後(1歳魚)が主体であった。今後、対馬海域主体に1歳魚の漁獲が増加すると考えられる。

(水産情報部)